

これまでの認知症ケアとこれからの認知症ケア

〈これまでの認知症ケア〉

- ① 認知症になると本人は何もわからない、できない。
- ② 問題に対処するのが「ケア」してあげる介護。
- ③ 問題は認知症のせい、仕方がない
- ④ 本人はわからないから、環境は最低でいい。危険だから何も置かない。
- ⑤ 危険だから外には出ない。
- ⑥ 家族や一部のケアスタッフが抱え込んでいる。
- ⑦ サービスがバラバラ
- ⑧ とりあえず、その場しのぎ

〈これからの認知症ケア〉

- ① 認知症でも感情や心身の力は豊かに残っている。
- ② 認知症でも利用者本位、尊厳と自立を支援することが「ケア」、本人が自分らしく生きていくための支援
- ③ 問題の多くは「つくられた障害」緩和や増悪防止ができる。
- ④ 環境の力で、安心と力の発揮をなじみの環境作りが鍵
- ⑤ できるだけ自然や地域とふれあいを
- ⑥ 地域の人々や多様な専門職チームで
- ⑦ サービスが連携
- ⑧ 経過全体を見て、計画的・継続的・予防的に



次回は「これまでの認知症ケアとこれからの認知症ケアの違い」についてです。

NPO法人ほっとあいからのご案内

「ほっとする・あったかい・助け合い・愛」

特定非営利活動法人ほっとあいは、平成10年の設立時より「住み慣れた地域で暮らしたい」と願う人々の思いに寄り添いながら活動を続けてまいりました。

その時々様々なニーズに対応するために多様なサービスを展開しています。

みなさまのまわりで、ほっとあいを必要とされる方がいらっしゃいましたら、担当の者までお声がけ下さい。

各事業の担当者がご相談を承ります。 ☎0224-52-8555



暦の上では初秋です。まだまだ日中は厳しい日射しが降りそそいでいます。朝晩の風に秋を感じる今日この頃で、つつい気持ちも心もゆるみがちです。

朝のお迎えの車の中で、利用者のAさんが「秋の日射しはほいども嫌うという言葉がある」と教えて下さいました。

常に屋外にいるような人でも、秋の厳しい紫外線は日が低くなることもあり、肌をじりじりと焼いて皮膚にも良くないので、避けた方がよいという意味だそうです。その日の「朝の会」では、出かけるときには日傘や帽子、手ぬぐいで「ほかぶり」などの話で盛り上がりました。寒暖の差も大きいですから、みなさん体調の調整をなさって下さいね。新型インフルエンザも流行してきています。規則正しい生活・うがい・手洗い・栄養・水分補給・正しい服薬がポイントです。

さて、昨年度も実施しましたが、引き続き今年度も「利用者満足度調査」のアンケートを取らせていただき、さらにサービスの向上を目指したいと思っております。近々用紙をお渡しいたしますので、ご協力をお願いいたします。詳細は別途説明申し上げます。

鈴虫に にたるや
風鈴のやさしき音色



太田 マキ

盆の日に 全開した菊の花
佛のみたま 戻りしごとく

武田 テル

祇王寺に風吹て
竹むらは古へのごと
そよぎやまずとも

武田 テル

八月の壁画

今月の壁画は「夏を思い出すもの」をテーマに作成していただきました。あつという間に出来上がった朝顔は、1本のつるにたくさん咲き、皆さんで協力して作り上げたひまわりは、太陽の方

(私たちの方)を向いて元気にさせてくれます。



大きな木にはセミやクワガタなどがおり、それを子供たちがつかまえるようとしている姿は、私たちの子供時代を思い出させてくれました。大きな木は「まるでマツタケみたいに見えるね」との声も聞かれ、笑いも生まれました。

壁画の上には、一人ひとり工夫して作られた風鈴があります。暑い夏を乗り切るために、涼しく感じてもらうように作っていただきました。個性あふれる作品が仕上がりました。

九月の行事

- ・地域交流を含めた芋煮会
- ・お茶会 (月見茶会)
- ・秋を感じながら散歩
- ・一緒に唄おう ・誕生会